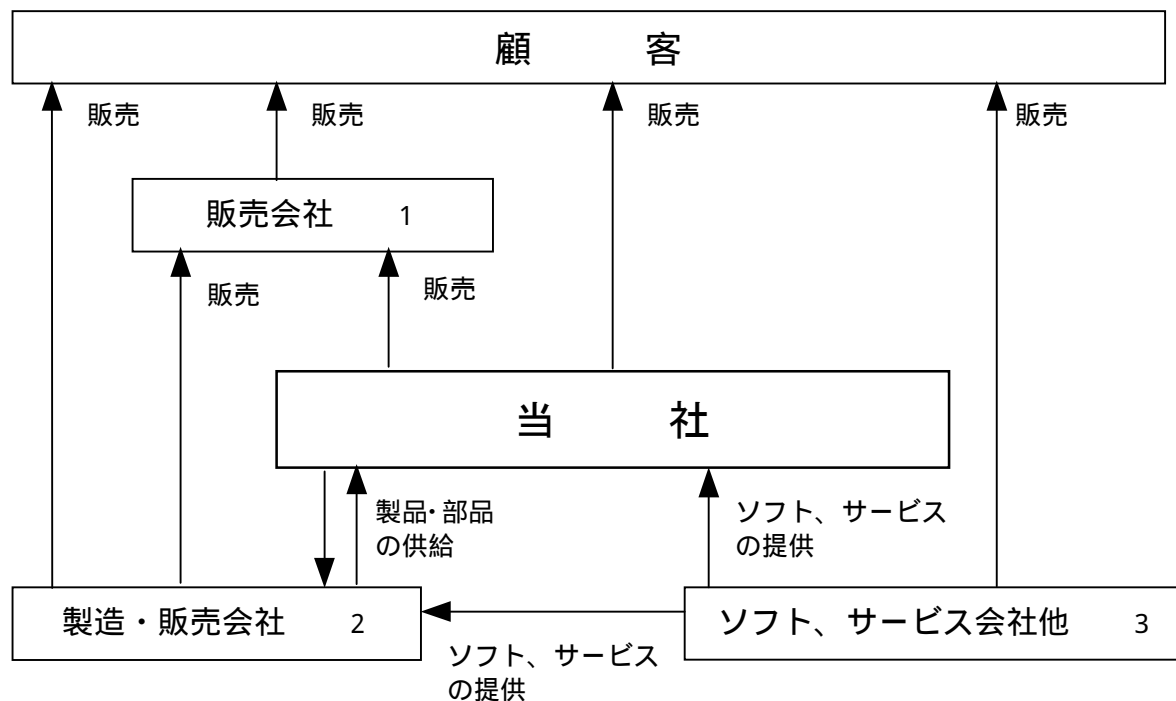


1. 企業集団の状況

当社企業グループにおける、当社（親会社）および関係会社の取引関係を図示すると、概ね次のとおりとなります。



分類 (連結子会社数)	主な連結子会社
※1 販売会社 (33社)	(株)沖デバイス、沖テレコム(株)、Oki America, Inc.、Oki Data Americas, Inc.、Oki Europe Ltd.、Oki Systems (Deutschland) GmbH、Oki Electric Europe GmbH、Oki Electronics (Hong Kong) Ltd.、Oki Semiconductor (Asia) Pte. Ltd. 等
※2 製造・販売会社 (25社)	(株)沖データ、(株)沖電気コミュニケーションシステムズ、沖プリントサーキット(株)、長野沖電気(株)、静岡沖電気(株)、宮崎沖電気(株)、宮城沖電気(株)、(株)沖センサデバイス、沖マイクロ技研(株)、Oki Telecom, Inc.、Oki (UK) Ltd.、Oki Data Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.、Oki (Thailand) Co., Ltd. 等
※3 ソフト、サービス会社他 (22社)	沖電気工事(株)、(株)沖電気カスタマアドテック、沖ソフトウェア(株)、沖通信システム(株)、(株)沖情報システムズ、(株)沖コムテック、(株)沖マイクロデザイン、(株)沖電気物流センター、沖エンジニアリング(株)、(株)オキアルファクリエイト 等

(連結子会社数合計 80社)

上記の内、沖電気工事(株)は東証2部に上場しております。
 上記の他、沖電線(株)が持分法適用関連会社となっております。

2. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

沖グループは、「ネットワークソリューションの沖電気」を企業ビジョンと定め、この企業ビジョンのもと、グローバルな大競争の中で継続的な発展を図るため、グループの強みを活かせる事業領域に経営資源を結集し、スピードある行動をとることを経営の基本方針としております。

当社は、一昨年9月以来、収益力向上を目指し、21世紀への飛躍を期した「フェニックス21計画」を策定し鋭意推進中であり、この計画は上記経営の基本方針に基づき、収益基盤をより一層強固にするために事業構造の転換および世界に通用するマネジメントの確立を行い、企業ビジョン「ネットワークソリューションの沖電気」の地位を確固たるものにするを基本施策としております。

今後、より一層強力に計画を推進することで、グループをあげてグローバルなネットワーク社会（e社会）の発展に貢献すると同時に、収益とスピードを重視した経営を行い企業価値を高めることで、全てのステークホルダー（株主・お客様・従業員など）のみなさまに貢献してまいり所存であります。

(2) 会社の利益配分に関する基本方針

当社は、今後の事業展開を勘案して研究開発投資および最新鋭製造設備の導入など企業体質の一層の充実、強化を図りつつ、株主のみなさまには収益に対応した安定的な配当を行うことを利益配分に関する基本方針としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

当社は、1998年度にスタートし2001年度を最終年度とした「フェニックス21計画」を鋭意推進中であり、この計画の完遂に向け、受注開発型から企画提案型へと新しいビジネスモデルに転換してスピードある事業運営を行い、「ネットワークソリューションの沖電気」の地位を確固たるものとしてまいります。

そのため、「事業構造の転換」と「経営マネジメントの革新」を、強力に推進中であり、各施策の実行は、いずれも当初計画を上回るスピード、規模で進捗しております。

また、当社は地球環境保全を経営上の重要課題として捉え、環境に配慮した商品の提供、環境会計の実施など環境負荷の低減を積極的に推進しております。

(4) 目標とする経営指標

「フェニックス21計画」における当社の経営目標は前述の通りですが、新しい経営マネジメントの確立を行う中で当社は、グローバルスタンダード経営体制を構築しようとしております。経営指標についても、従来の売上高、経常利益に加え、キャッシュフロー、経済的付加価値を設定し、企業価値を高めてまいります。

3. 経営成績

(1) 当中間期の概況

当中間期におけるわが国経済は、個人消費が依然として低迷したものの、企業部門において徐々に収益が上向いてきたことにより、極めて緩やかながら自律的景気回復の道を辿り始めました。

しかしながら、当社の事業領域におきましては、景気の牽引役であるIT（情報技術）関連投資の立ち上がりが鈍いことなどにより、未だ厳しい市場環境にあります。

加えて、業界各企業が市場における優位を勝ち取るために、グローバルな規模での競争を繰り広げており、優勝劣敗の厳しい状況がますます顕著になっております。

当社は、21世紀への勝ち残りを遂げるため一昨年来「フェニックス21計画」を策定し、グループをあげて、ひたすら実行してまいりました。その成果により前期1999年度は目標であった黒字化を連結・単独ともに果たすことができました。

この2000年度は、さらに収益基盤を強固なものにするため当初計画を前倒して4月1日よりグループ企業も含めたカンパニー制を敷くとともにスピード経営を目指し執行役員制を導入するなどの体制を整えました。

この新体制のもと、当中間期においては、資源の重点事業への集中、アライアンスの強化・拡大を徹底して行い、「ネットワークソリューションの沖電気」の企業ビジョンのもと、各カンパニーがそれぞれの目標に向け攻めとチャレンジを実践してまいりました。

【連結中間業績】

売上高につきましては、電子デバイスがロジックやファンダリを中心として好調に推移したことにより3,113億円となりました。損益につきましては、メモリ価格が堅調に推移したことや、継続的な原価低減に取り組んだことにより、営業利益は94億円、当期利益は20億円となり、当初見込みを上回る業績となりました。

【単独中間業績】

売上高につきましては、前中間期比9%増の2,275億円、中間損益は前中間期21億円の損失に対して58億円の利益となり、2000年度復配に向けて順調なスタートを切ることができました。

中間配当につきましては未だ収益の回復が十分ではなく見送ることとさせていただきますが、期末配当に向けグループの総力を結集して収益の確保に努めてまいります。

(2) 通期の見通し

わが国経済は、自律的な景気回復基調が続くものと期待されますが、米国およびアジア経済の減速、原油価格の高騰、為替の変動などの懸念材料もあり、先行きは予断を許さない状況にあります。

当社の通期業績につきましては、「フェニックス21計画」が順調に進行していることに加え、電子デバイス製品の需要が上期に引き続き下期も堅調に推移することなどにより、次に示すとおりの見通しをたてております。

(連結通期業績見通し)

単位：百万円

	売上高	経常利益	当期純利益
今回見通し	750,000	18,000	9,000
(参考) 前回 2000/5/26 発表見通し	750,000	17,000	9,000

(単独通期業績見通し)

単位：百万円

	売上高	経常利益	当期純利益
今回見通し	550,000	17,000	11,000
(参考) 前回 2000/5/26 発表見通し	540,000	15,000	9,000

(注) 上記見通しは、現時点における事業環境に基くものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績とは異なる場合がありますことをご承知おき願います。